

## 第2章 高齢者等の現状と将来推計

### 1 高齢者の現状・推計と調査結果

#### (1) 人口の推移等と高齢化の状況

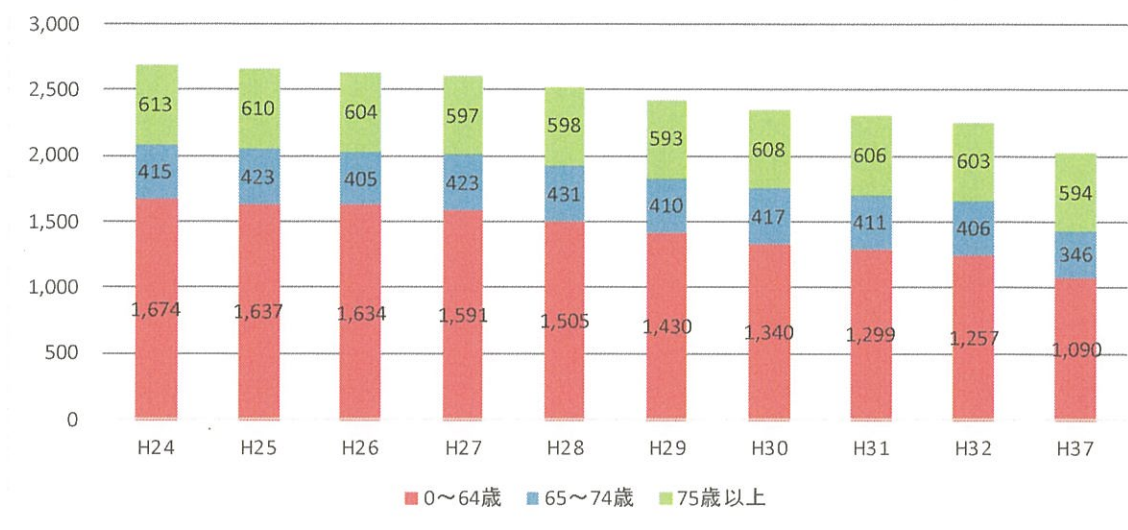
本町の総人口は昭和30年の国勢調査時の7,048人をピークに年々減少してきています。前期高齢者人口は概ね3年を周期として増減を繰り返していますが、今後は緩やかに減少していくものと思われます。後期高齢者人口はほぼ横ばい状態で推移しており、今後もこの傾向が続いていくものと思われます。しかし、総人口や若年層の減少割合と比較し、高齢者人口の減少割合が緩やかなことから、高齢化率は年々上昇していくものと見込まれます。

図表 【秩父別町の人口の推移と推計】

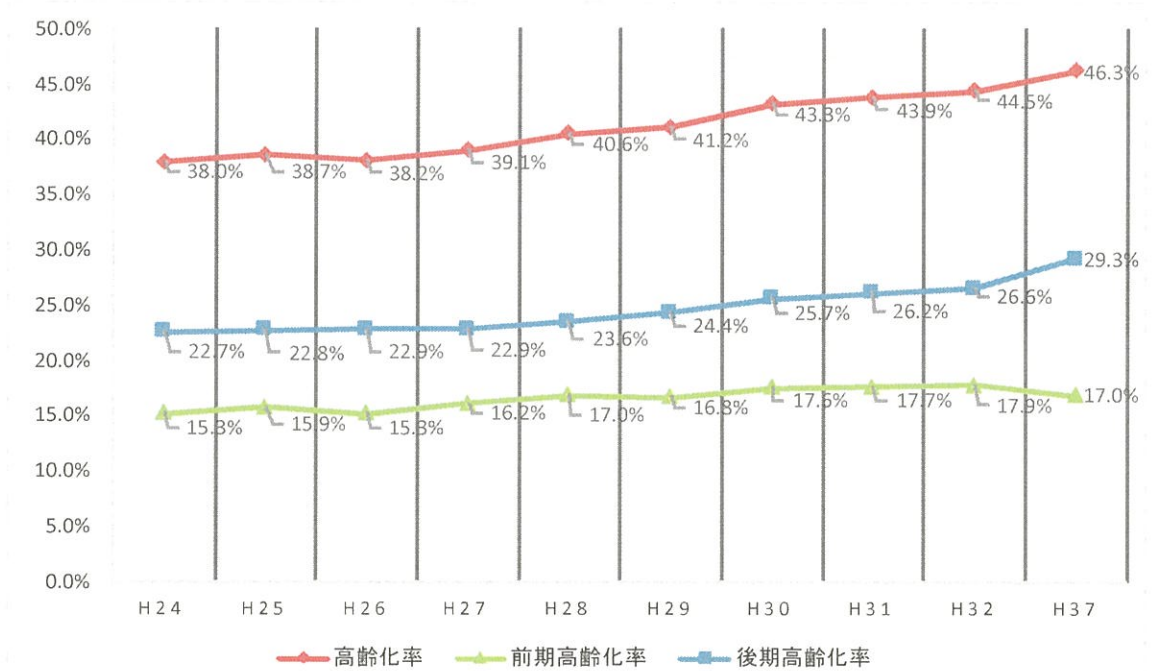
区分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成37年
	(3月31日現在)		(1月1日現在)				(推計値)			
総人口	2,702	2,670	2,643	2,611	2,534	2,433	2,365	2,316	2,266	2,030
高齢者人口 (65歳以上)	1,028	1,033	1,009	1,020	1,029	1,003	1,025	1,017	1,009	940
前期高齢者人口 (65～74歳)	415	423	405	423	431	410	417	411	406	346
後期高齢者人口 (75歳以上)	613	610	604	597	598	593	608	606	603	594
高齢化率	38.0%	38.7%	38.2%	39.1%	40.6%	41.2%	43.3%	43.9%	44.5%	46.3%
前期高齢化率	15.4%	15.8%	15.3%	16.2%	17.0%	16.9%	17.6%	17.7%	17.9%	17.0%
後期高齢化率	22.7%	22.8%	22.9%	22.9%	23.6%	24.4%	25.7%	26.2%	26.6%	29.3%

(資料) 総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」(平成24年～平成29年)  
厚生労働省老健局介護保険計画課計画係「第7期将来推計用の推計人口の配布について」(平成30年～平成32年、平成37年)

図表 【秩父別町の人口推移】



図表 【秩父別町の高齢化率の推移】



## (2) 高齢者のいる世帯の状況

総世帯数の減少に対し、世帯員に高齢者がいる世帯数は増加しています。総世帯数に占める割合を見ると、高齢者のいる世帯の中でも高齢夫婦世帯と高齢単身世帯の割合が上昇しており、高齢単身世帯の割合が顕著に伸びています。

図表 【高齢者世帯の推移】

区 分	平成17年	平成22年	平成27年
総世帯数	1,115	1,052	1,017
高齢者のいる世帯数	616	601	618
総世帯数に占める割合	55.2%	57.1%	60.8%
高 齢 夫 婦 世 帯	203	212	209
総世帯数に占める割合	18.2%	20.2%	20.6%
高齢者世帯数に占める割合	33.0%	35.3%	33.8%
高 齢 単 身 世 帯	130	133	165
総世帯数に占める割合	11.7%	12.6%	16.2%
高齢者世帯数に占める割合	21.1%	22.1%	26.7%

〈資料〉総務省統計局「国勢調査」

## (3) 高齢者の健康状態等の状況

本町の前期高齢者の国民健康保険での診療費は平成27年度実績で、全道平均と比較して全体で一人あたり診療費で見るとおよそ45,000円高くなっています。

後期高齢者では、一人あたり診療費は平成27年度実績で全道平均よりも全体でおおよそ4,000円高くなっています。

図表 【国民健康保険(前期高齢者)の状況】

区分	一人あたり診療費(円)	一件あたり日数(日)	
秩父別町	入院	226,328	15.82
	入院外	184,120	1.32
	歯科	39,791	2.27
	全体	450,240	1.86
全道平均	入院	214,069	14.45
	入院外	159,384	1.46
	歯科	32,048	2.24
	全体	405,501	1.93

〈資料〉北海道国民保険団体連合会「平成27年度国民健康保険事業状況」

図表 【後期高齢者医療の状況】

区分	一人あたり診療費(円)	一件あたり日数(日)	
秩父別町	入院	567,590	23.62
	入院外	270,469	22.92
	歯科	31,940	3.500
	全体	869,999	50.04
全道平均	入院	567,211	20.39
	入院外	268,077	25.38
	歯科	30,686	3.890
	全体	865,974	49.66

〈資料〉北海道後期高齢者医療広域連合「平成27年度北海道の後期高齢者医療」

#### (4) 高齢者の社会参加等の状況

##### i) 就業の状況

本町の高齢者の就業状況を詳細に示す統計資料はありませんが、65歳以上になっても農業経営の担い手となっている人や農業従事者として後継者のサポートをしている人、企業で勤務している人がいます。

臨時的・短期的な仕事を通じて生きがいの充実や社会参加の促進を図る高齢者事業団には、平成29年度には22人が会員として登録されており、軽作業や町有施設の管理などその培ってきた経験や能力を生かして仕事をしています。

##### ii) 生涯学習活動及び社会貢献等の状況

生涯学習活動として、高齢者を含め、老人福祉センターやファミリースポーツセンター、生涯学習センターなど町の施設を利用して各種文化活動・スポーツ活動を楽しんでいます。

	老人福祉センター	ファミリースポーツセンター		生き生き館	青年会館
文化活動	カラオケ	囲碁	短歌	詩吟	獅子舞
	踊り	俳句	書道	手紡ぎ	
		水墨画	詩吟	陶芸	
		カラオケ	川柳	軽音楽	

	ファミリースポーツセンター		生き生き館
スポーツ活動	パークゴルフ	ウォーキング	卓球
	卓球	バドミントン	テニス
	ミニバレー	ダンス	ダンス
	フォークダンス	フラダンス	
	テニス		

社会貢献活動については、町民の目線でまちづくりを考え、まちの活気づけを創出する活動を積極的に行っている「まちづくり協働隊」や、交流体験農園の利用者への作物栽培指導を行い、都市住民にわがまちの魅力を伝えている「田舎の親戚」、各種奉仕活動を行う「赤十字奉仕団」などへ高齢者も参画し、経験や知識を最大限活用し活動しています。

各地縁団体の活動を見てみると、各町内会では清掃等の奉仕活動や交流レクリエーション事業など、高齢者を含めたなかで様々な活動を行っています。また、町内会ごとの老人クラブ活動では、定期的な集会を開いて親睦交流を深め、健康づくりや生きがい活動などを行っています。

また、町内の社会福祉法人が社会貢献事業として、自主的に高齢者の通いの場を提供し、多くの高齢者が参加しています。

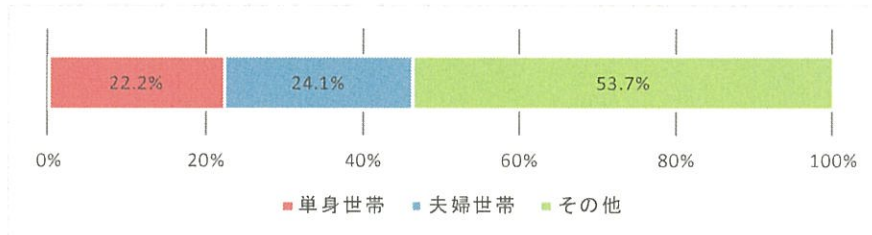
### (5) 在宅介護実態調査の結果

家族・親族からの介護の状況や介護者の負担等の把握のため、在宅で生活している要介護認定者を対象に在宅介護実態調査を行いました。調査票数は55票で、回収数は100%の55票です。

#### i) 在宅要介護者の世帯類型

在宅で要介護認定を受けている人の世帯類型としては、高齢者のみの世帯と65歳に満たない家族との同居が概ね半々となっています。

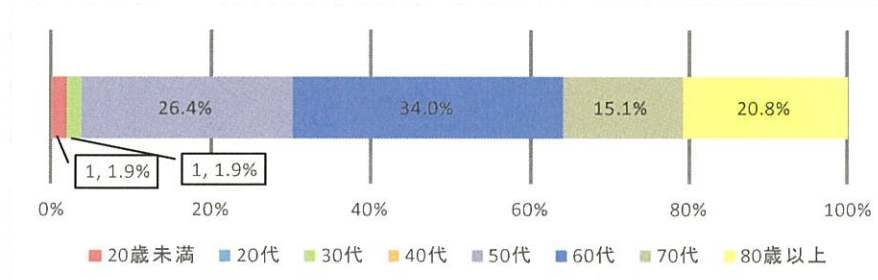
設問 【世帯類型】



#### ii) 主な介護者の状況

要介護者の35.9%が70歳以上の家族・親族の介護を受けており、概ね3人に1人が既に老老介護の状態となっています。また、34%が60歳以上の家族・親族の介護を受けていることから、今後更に老老介護の割合は上昇すると考えられます。

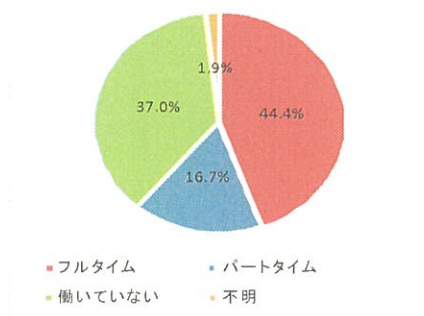
設問 【主な介護者の年齢】



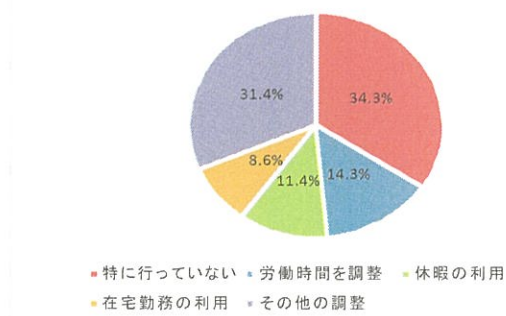
※20代、40代との回答はありませんでした。

主な介護者の概ね6割以上は働きながら介護・介助を行っています。そのおよそ3分の2の方が何らかの調整をしながら、仕事と介護を両立させています。

設問 【主な介護者の勤務形態】  
<勤務形態>

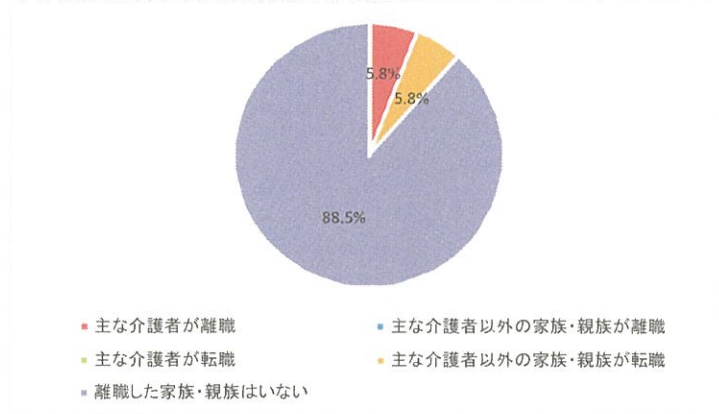


<介護にあたっての働きかたの調整>

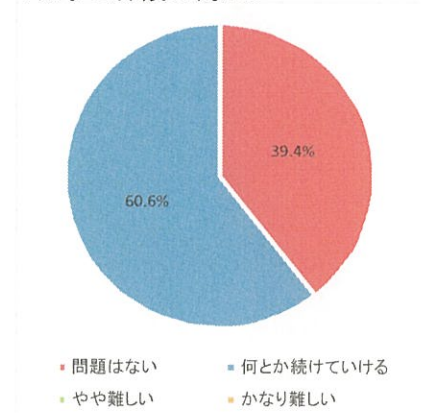


過去1年間に家族の介護を主な理由として仕事を辞めた方は1割強ですが、今後も働きながら介護を続けていけそうかという質問に対して、何とか続けていけそうだと答える方が6割で、今後次第に家族・親族の介護負担が高まっていく恐れがあります。

設問 【働きながらの介護の継続性】  
 <介護を理由とした離職の状況>



<仕事と介護の両立>

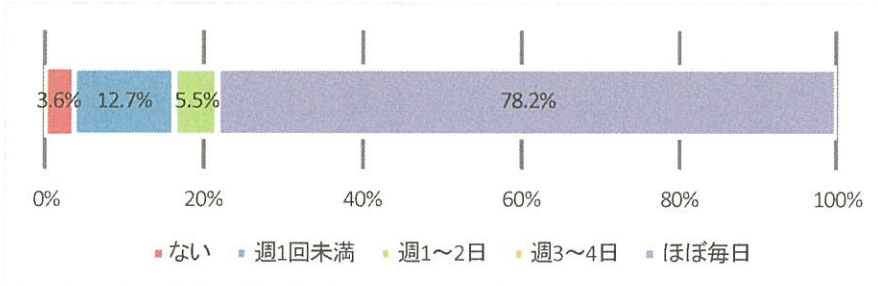


※やや難しい、かなり難しいとの回答はありませんでした。

### iii) 家族・親族による介護

ほぼすべての在宅要介護者の方は、同居・別居を問わず家族・親族から何らかの介護を受けている状況です。ほぼ毎日家族・親族による介護を受けている方は、全体の8割弱の割合となっています。

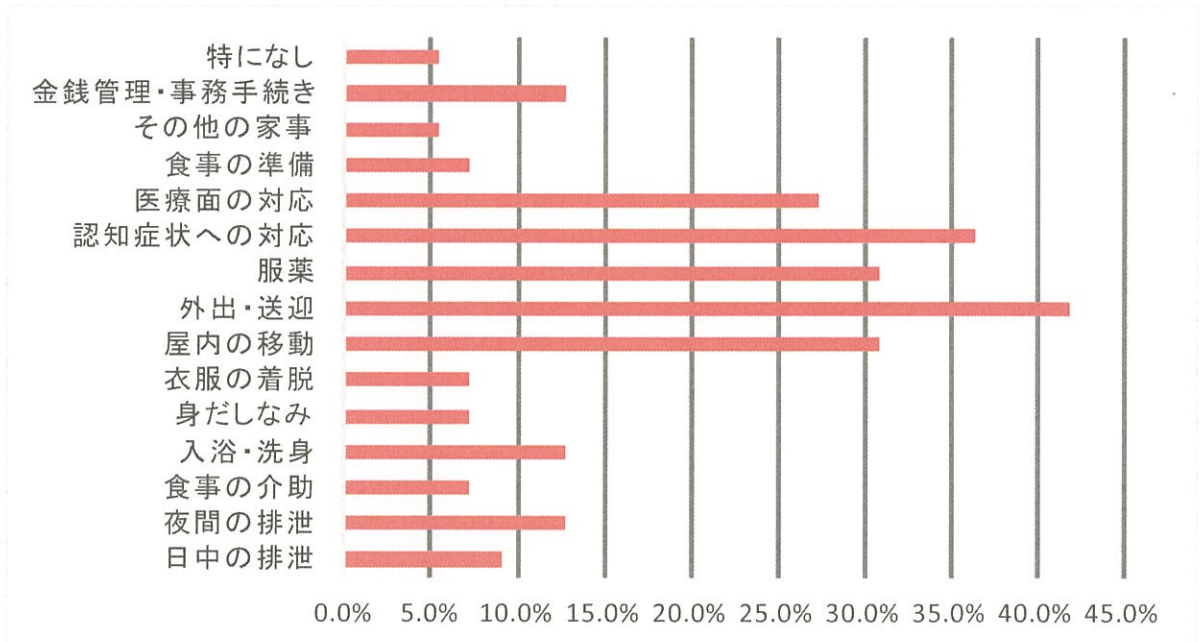
設問 【家族・親族からの介護の頻度】



※「週3~4日」との回答はありませんでした。

主な介護者が不安に感じている介護内容は、屋内外での移動介助がおよそ7割と最も多く、次いで服薬管理を含めた医療面での介助がおよそ6割、その次に認知症状への対応がおよそ4割となっています。

設問 【主な介護者が不安に感じる介護内容】



在宅での介護から施設での介護への移行の検討状況について、およそ65%の方が在宅で家族の介護を継続していく意思を示していますが、35%の方は在宅での介護に限界を感じており、全体のおよそ1割の方は既に施設入所・入居への申し込みをしている状況です。

設問 【施設への入所・入居の検討状況】

